

平成 29 年 5 月 29 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770119

研究課題名（和文）デジタル時代における次世代へのフランス文学とその研究の継承法について

研究課題名（英文）The transmission of French literature studies to the younger generation in the digital society

研究代表者

廣田 大地 (Hirota, Daichi)

神戸大学・大学教育推進機構・准教授

研究者番号：00633885

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：現在日本国内のみならず世界各国でも深刻化している若年層の古典文学離れを防ぎ、次の世代への文学研究の継承を促すため、その方法論確立の第一歩として、研究者が専門としてきた19世紀フランス詩人ボードレールの研究を中心に、漫画『悪の華』におけるフランス文学の影響に関する分析と、フランス語とフランス詩の学習WEBサイトの構築とを行った。

特に後者に関しては、フランス詩を通してフランス語を学ぶWEBサイト「poefra（ぽえふら）」として、今日における日本の若者がフランス語の学習を入口として、フランス文学の豊かな世界に触れるための新たな道筋のあり方を具体的に提示することが出来た。

研究成果の概要（英文）：To prevent the growing tendency of today's Japanese young people to avoid classical literature, I have established a new methodology for young people to discover the French literature, focusing especially on the 19th century French poet, Baudelaire. First, I analyzed the influence of French literature in Japanese popular Manga, adapted also into Animation, "The Flowers of Evil". Second, I built a website for French and French poetry learners, named "poefra".

研究分野：ヨーロッパ文学

キーワード：ボードレール フランス文学 フランス語 デジタル インターネット フランス詩

1. 研究開始当初の背景

近年、日本国内におけるフランス文学研究は極めて高い水準にあり、フランス本国の研究者にも注目されることが少なくない。しかしながら、その一方で、若年層のフランス文学離れや、研究内容の過度な専門化による一般読者の関心との乖離といった問題が深刻化している。これまでの研究の蓄積を活用しつつ、フランス文学の魅力を実世代へと伝えるための方法論をあらためて問いなおす必要性が生じている。

2. 研究の目的

現在日本国内のみならず世界各国でも深刻化している若年層の古典文学離れを防ぎ、次の世代への文学研究の継承を促すため、その方法論確立の第一歩として、研究者が専門としてきた 19 世紀フランス詩人ボードレールの研究を対象に、SNS、アプリ、メディアミックスといった現代的な手法を文学研究の発信の場に導入し、若年層がフランス文学へ関心をもつ機会を生み出す方法を探る。その方法を模索する上で、国内外のフランス文学研究者や非研究者と議論を重ねることで、これからのデジタル時代における新たな文学研究のあり方を探求する。

3. 研究の方法

次の 3 点の計画を同時進行で実行しつつ、今後のデジタル世代に向けてフランス文学研究がどのように情報発信を行っていくことが有効なのかを明らかにする。

(1) 相互方向的なオープン・データベースの構築。国内外の先行研究や一般書の書誌情報や、ボードレールに関わる情報を集約し、発信するサイトの基礎となるデータベースを作成する。

(2) 19 世紀フランス詩を題材にしたアプリ開発。19 世紀フランス詩をコンテンツとしたフランス語の学習アプリを作成する。これにより、フランス語学習者がフランス詩に初めて触れる新たな場所を生み出し、若年層におけるフランス文学愛好者が育つ道筋を確保する。

(3) メディアミックスとの交流。現在の若年層の一つの特徴として、アニメ・漫画・ゲームによるメディアミックスの中で育っているという点があげられる。2013 年初頭、そのようなメディアミックスの一つとして、押見修造氏により連載中の漫画『悪の華』がアニメ化された。非難評価の双方を生み出しているこの事象ではあるが、フランス文学の

現代日本における最も現代的な受容であるという点は否定できない。ボードレール研究者の立場から、この漫画・アニメについての分析を発表することにより、アニメから文学作品へと興味を広げていく若年層の獲得を目指す。

4. 研究成果

研究に着手した当初は(1)データ・ベース開発と、(2)アプリ開発とを、独立した別々のものとするを予定していた。しかしながら両者の開発を進めていく中で、専門家を対象とした前者と、若い学習者を対象とした後者とを一体化させたコンテンツを作成することで、フランス語の初級学習者をフランス文学の世界へと導くことが出来るような流れを作りだすことができると判断するに至った。また、アプリ開発や WEB コンテンツ開発に関する調査を行った結果、スマートフォン用アプリとして作成するよりも、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれでも、また android や iOS の違いに関わらず利用することが出来るような「レスポンス・ウェブデザイン」に基づいた WEB サイトとして作成することが有効であることが明らかになった。

そのような見地から、フランス詩を通してフランス語を学習するための WEB サイト「poefra (ぼえふら)」を開発し、公開している (<http://www.litterature.jp/poefra/>)。開発にあたっては、フランス文学研究者のみならず、WEB 開発専門家やフランス語を学習する学生など、様々な意見を参考にすることで、デザインの親しみやすさ、操作性の分かりやすさなど、これまでのフランス文学研究関連の WEB サイトでは十分に考慮されてこなかった側面にも力を入れている。

「ぼらふら」トップページ



「ぼえふら」のコンテンツは大きく分けて「詩の紹介」と「詩人の紹介」の 2 種類に分かれている。「詩の紹介」には、現在、ヴェルレーヌ「秋の歌」、プレヴェール「朝の食事」、ボードレール「旅への誘い」、ランボー

「谷間に眠る者」の4つのコンテンツを収録している。それぞれのコンテンツでは、ただ単にフランス語原文とその日本語訳ならびに解説を掲載するのではなく、関連した楽曲や絵画を紹介しつつ、徐々に詩作品の内容を学習するという手法をとることにより、視覚・聴覚を利用したフランス詩の紹介を行っている。

また、それぞれのコンテンツからは、その詩作品で用いられているフランス語の単語を学習するためのページに進むことができるようになっている。無料学習サイトであるQuizlet(<https://quizlet.com>)を利用することで、ただ単にフランス語の綴りを覚えるだけでなく、その音の響きも確認しながら学習できるようになっている。このようにして、外部サイトのコンテンツへのリンクを積極的に活用することで、最小限の予算で最大限の効果を挙げられるように努めている。

もう一つのコンテンツの種類である「詩人の紹介」では、上述のヴェルレーヌ、プレヴェール、ボードレール、ランボーを始め、19世紀を中心としたフランス詩を代表する10名の詩人の紹介コンテンツを収録している。ここでは、フランス文学についてほとんど知識を持ち合わせていないような若者を読者として想定し、親しみやすい文体による各詩人の紹介を掲載し、それに続いて、WEB上で見ることのできる関連情報へのリンクを提示している。現時点では、コンテンツ数は10に留まり、各ページの内容も簡易なものであるが、今後これを拡張していくことで、一種のフランス文学データベースとしての性質を持たせることも可能になっている。

このようにして研究者は、WEBサイト「ぼえふら」を通して、3年間の研究期間をかけて開発した、次世代に対するフランス文学の継承のための一つの方法論を具体的に提示している。

(3)メディア・ミックスとの交流に関しては、押見修造『悪の華』におけるボードレールの影響に関する研究を発表している。2009年から2014年まで雑誌に連載され、2013年にはテレビアニメ化もされたこの漫画作品において、ボードレールの詩集『悪の華』の役割は単なる作品上の小道具に留まらず、作者である押見修造氏のボードレールを初めとしたフランス文学やその影響を受けたヨーロッパ近現代絵画についての学識が、作品に奥行きを生み出していることが指摘できる。また、この漫画作品の成立から窺い知ることが出来る点として、フランス文学が日本において受容される際、フランス語原文により直接受容されるのではなく、翻訳書や、文学作品をテーマにした絵画作品、映画作品などの媒介を経て、間接的に受容されていることが多い。ほかに、多くのフランス文学作品が日本語に翻訳されるようになり既に半世紀ほどになる今日においては、親の世代が

子の世代に与える影響という形で、フランス文学の受容現象が起きていることも、この作品にみられる特徴として指摘できる。

研究期間の最終年である2016年度には、当初の予定通り、若手フランス文学研究者を中心とした「次世代へのフランス文学の継承」をテーマにしたシンポジウムを企画・開催した。研究者は上述の「ぼえふら」について報告し、会場の参加者とともにさらなる改良の可能性を議論するとともに、関西の大学でフランス語・フランス文化論の授業を担当している若手フランス文学研究者2名が、昨今の大学生に対してフランス文学の魅力を伝えるためにはどのようなアプローチが有効かというテーマで発表を行った。

本シンポジウムでの議論によって、現代日本社会におけるフランス文学教育の重要性として、次の点があらたに浮かび上がった。すなわち、フランス文学は単にフランス文化を理解するために重要なだけではなく、古代ギリシャ・ローマを源流とし、ヨーロッパを経由して、現代日本においても連続と受け継がれている人類の「知の伝統」というものの本質をただしく理解し滋養する上でも、その中継地点として大きな役割を果たしているフランス文学を学ぶことは、今日の日本の若者にとっても重要なものであるという点である。

本研究は、「フランス文学の次世代への継承」という大きな問題に取り組むための第一歩に過ぎない。本研究によって、具体的に提示することができたフランス文学紹介のWEBページや、現代の漫画作品におけるフランス文学の影響に関する分析が、「フランス文学の次世代への継承」という目的に対して、真に有効な手段であるのかどうかという検証は、残念ながら本研究の短い研究期間の中では十分に行うことが出来なかった。今後の課題として、そのような検証を行うとともに、フランス文学研究と現代の若者たちと繋ぐための更なる場を開拓していくことを目指したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3件)

廣田 大地、「フランス語単語練習WEBページ「フラ単」を用いた授業運営について」、『Rencontre』(査読無) 29号、2015年、pp. 29-32.

http://www.rpkansai.com/bulletins/pdf/029/029_032_hirota.pdf

廣田 大地、「ボードレールとパスカル信仰と想像力に関して」、『Gallia』(査読有)

55号、2015年、pp.45-53.

廣田 大地, “Presence of Baudelaire in Today’s Japanese Manga : The Flowers of Evil (Aku no Hana, 2009-2014) by Shuzo Oshimi”, *AmeriQuests* (査読有), 13.1, 2017, pp. 1-9.
DOI: 10.15695/amqst.v13il.4279
<http://www.ameriquets.org/index.php/ameriquets/article/viewFile/4279/2248>

〔学会発表〕(計 2件)

廣田 大地, “The Flowers of Evil (Aku no Hana, 2009-2014), The Japanese Manga : by Shuzo Oshimi”, *Cultural Modernism IV: Baudelaire In Japan*, Held at the W.T. Bandy Center for Baudelaire and Modern French Studies, 2015年11月5日、ナッシュヴィル (アメリカ).

廣田 大地, 「フランス語学習におけるフランス詩の活用方法を考える」、関西フランス語教育研究会、2016年3月25日、上田安子服飾専門学校 (大阪).

〔図書〕(計 0件)

〔その他〕

・フランス詩を用いたフランス語学習 WEB サイト「poefra (ぽえふら)」
<http://www.litterature.jp/poefra/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

廣田 大地 (HIROTA, Daichi)
神戸大学 大学教育推進機構 准教授
研究者番号：00633885

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()